当院における
インシデント報告件数の推移

琉球大学医学部附属病院
安全管理対策室
國吉　ひろみ

当院の概要

- 病床数：600床
- 看護体制：（H.20年度～）7：1
- 平均在院日数：20.2日（H.20年度）
- 病床稼働率　：83.7%（H.20年度）
- 1日平均外来患者数：1057.4人（H.20年度）
- 職員数：1068人　＊非常勤含（H.20年度）
  （医師：343人、看護師：479人）
- 平成21年2月～電子カルテ導入

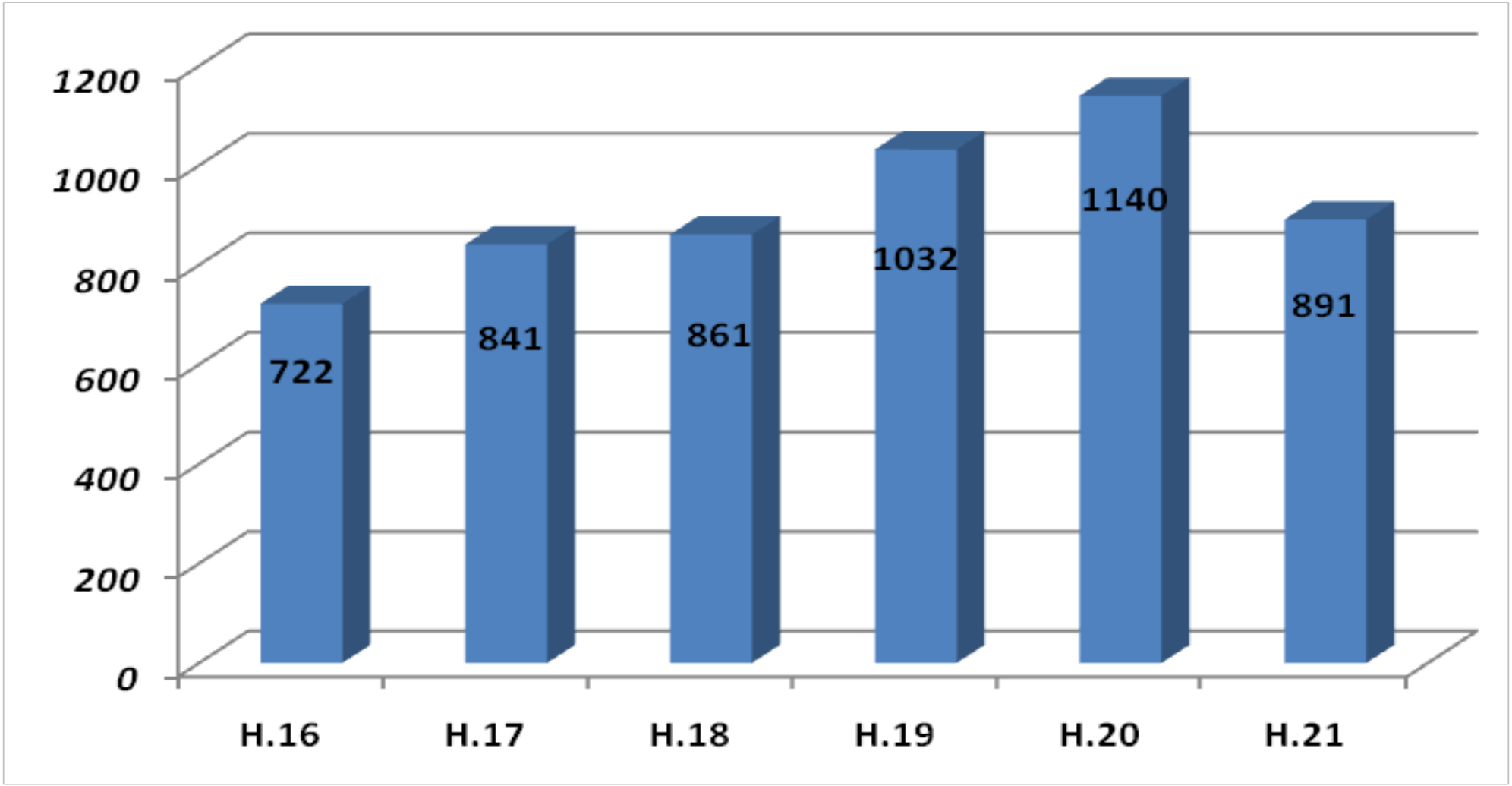
はじめに

リスクマネジメントの目的

① エラーの発生しないシステムの構築
② エラーが事故につながらないシステムづくり

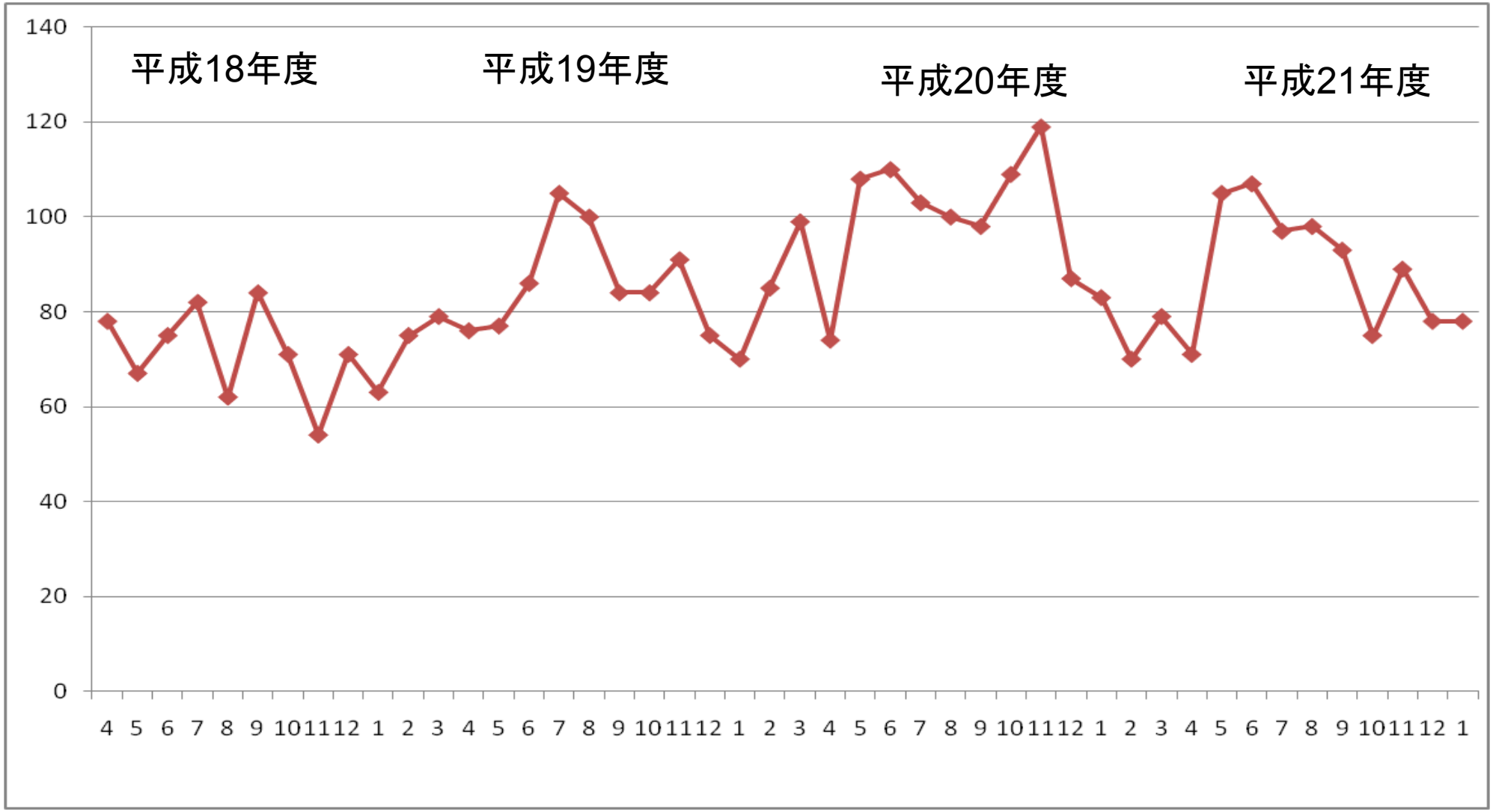
上記の目的が達成されたかを検討するために、当院におけるインシデント報告件数の推移をみた。

年度別インシデント報告件数



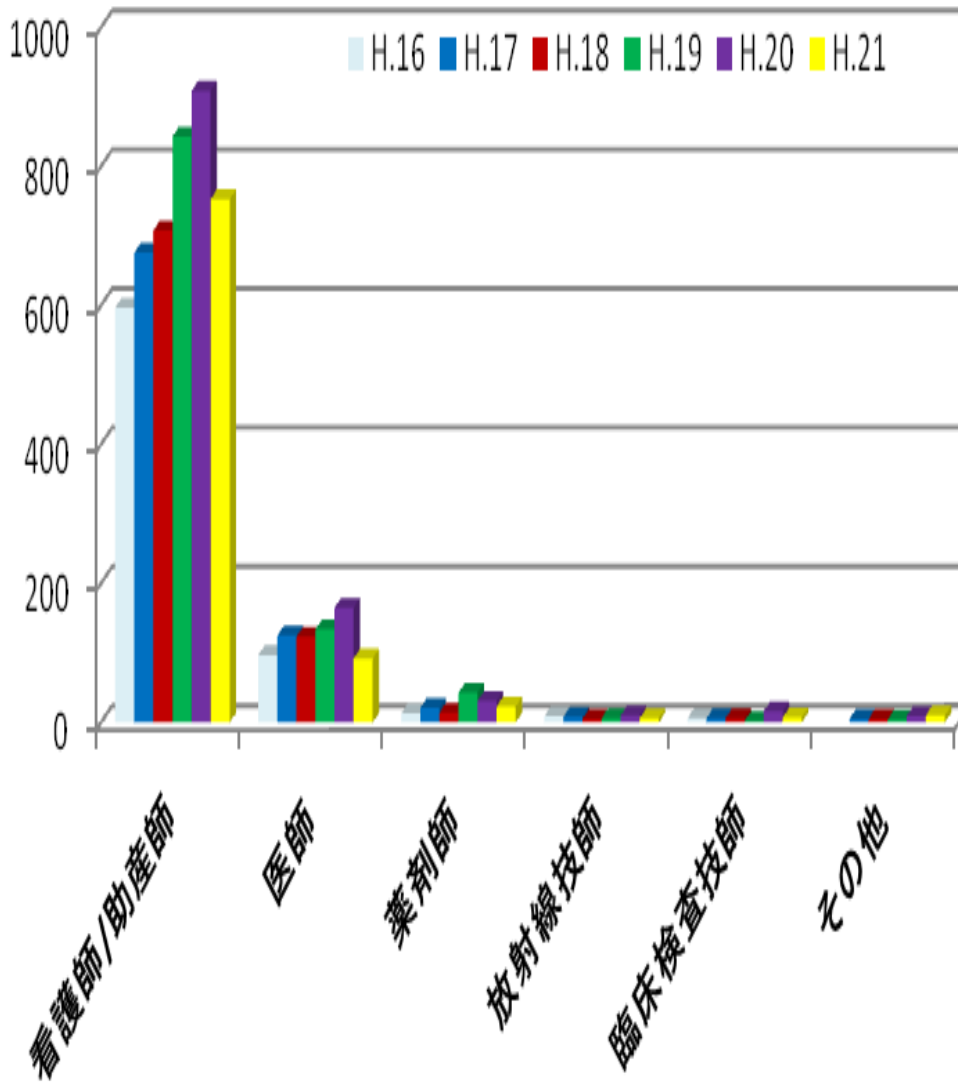
國吉 ひろみ　提供

月別インシデント報告件数

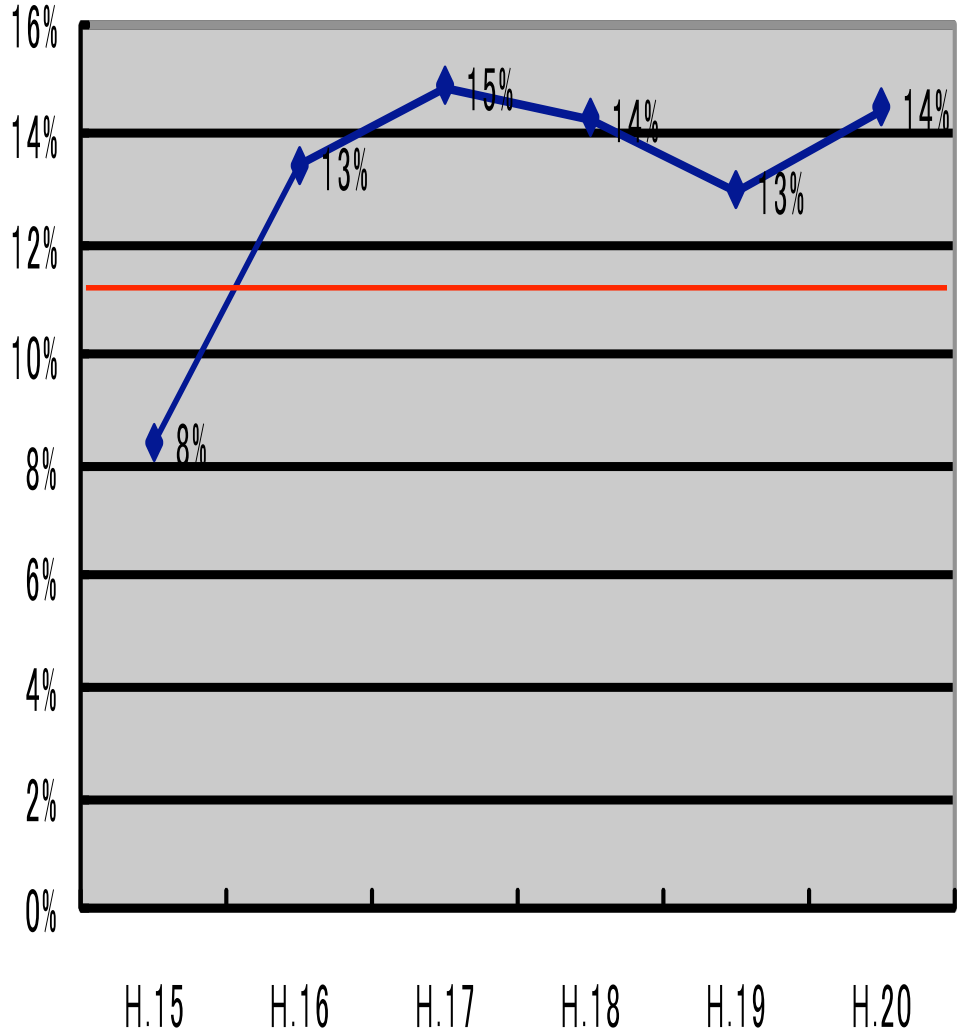


國吉 ひろみ　提供

職種別報告件数

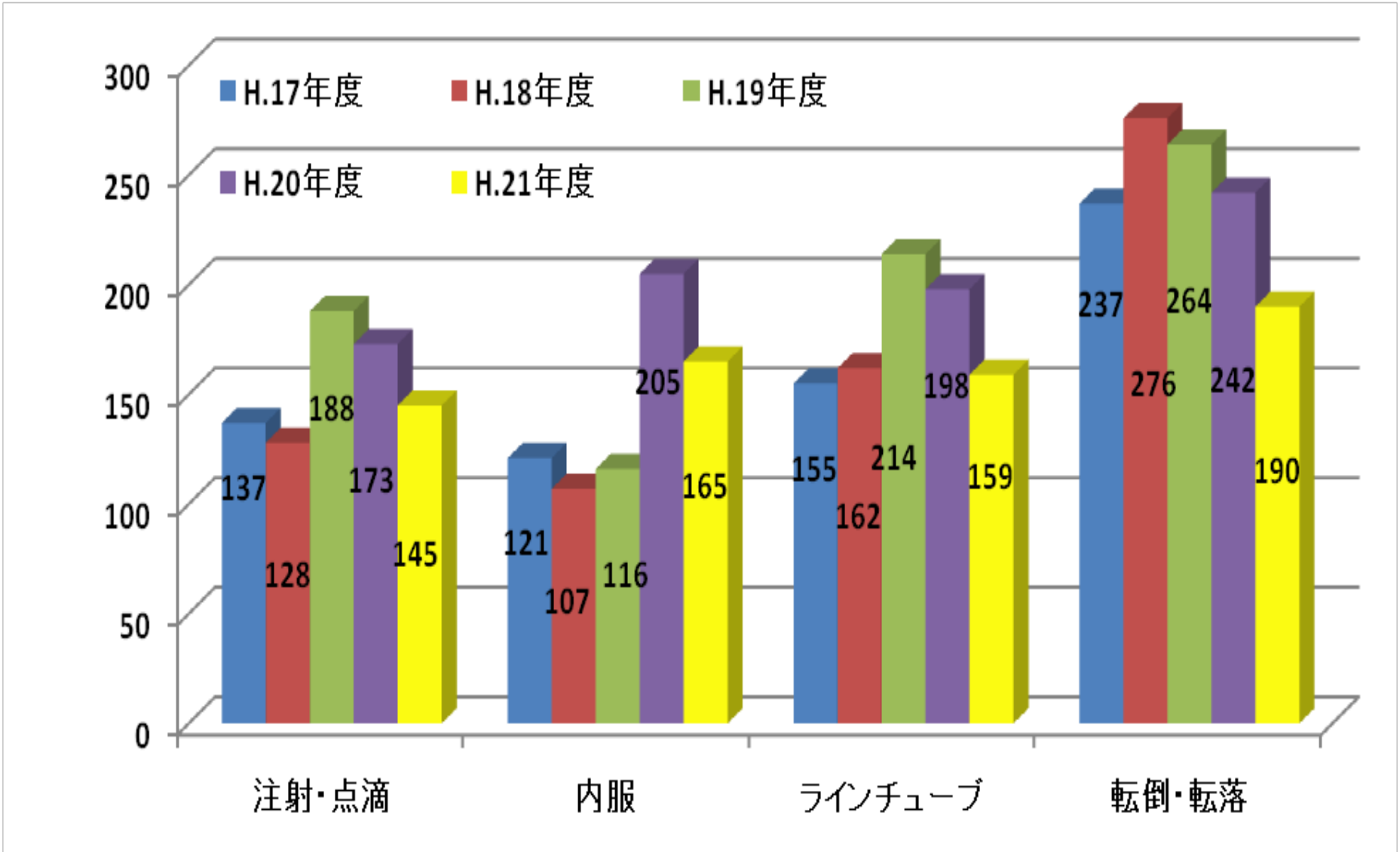


医師の報告の割合



國吉 ひろみ 提供

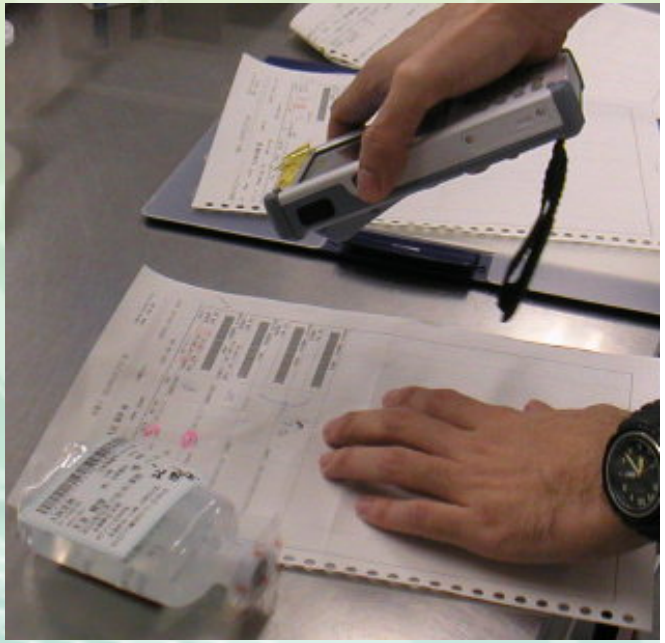
年度別主要インシデント



國吉 ひろみ　提供

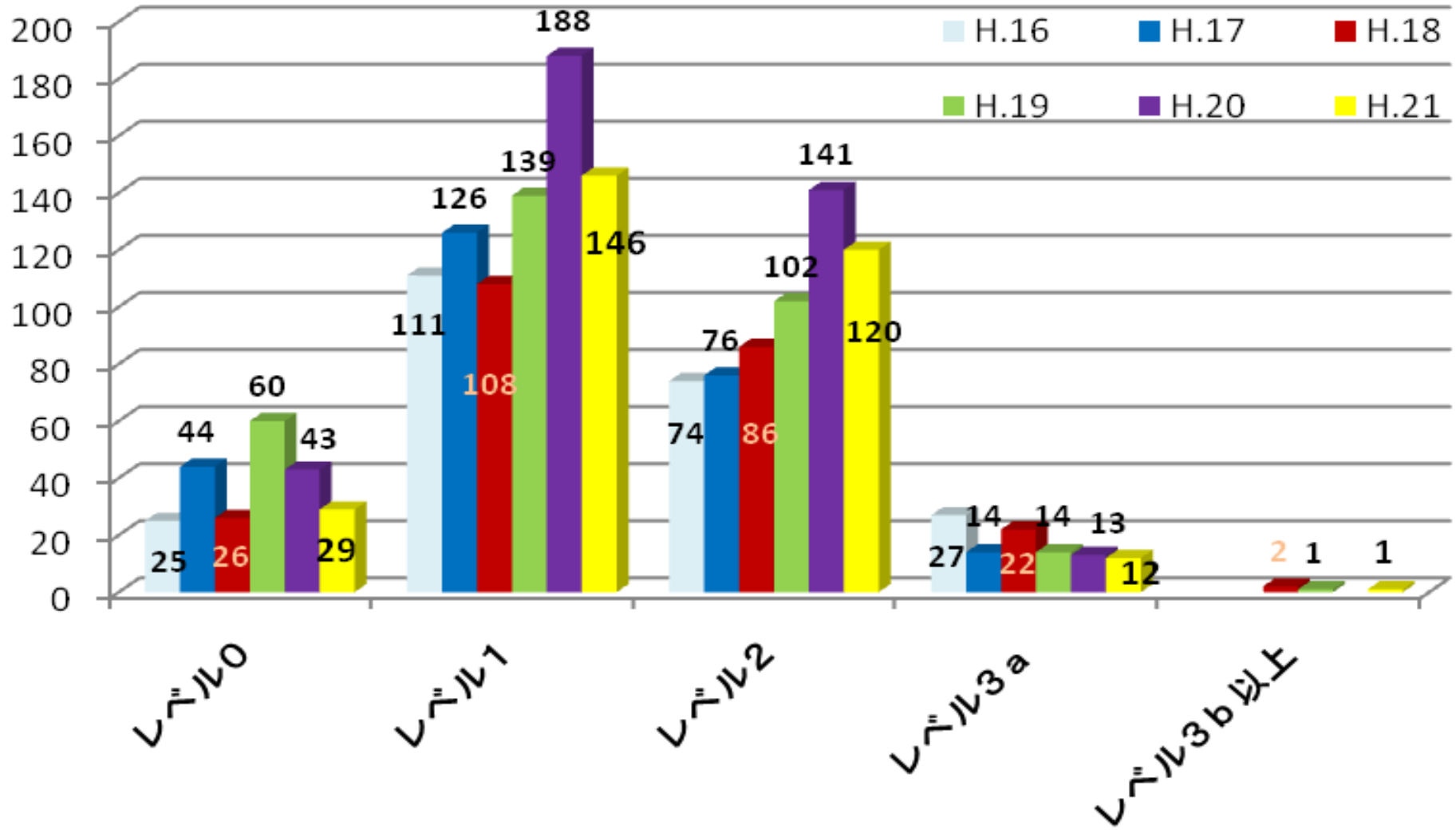
注射に関する安全への取り組み

- PDA導入
- 指差し呼称でのダブルチェックの徹底
- ダブルチェックの統一
- 輸液ポンプ等セット後の他者の目による確認を定着させる
- 事故防止対策委員の各部署での取り組み



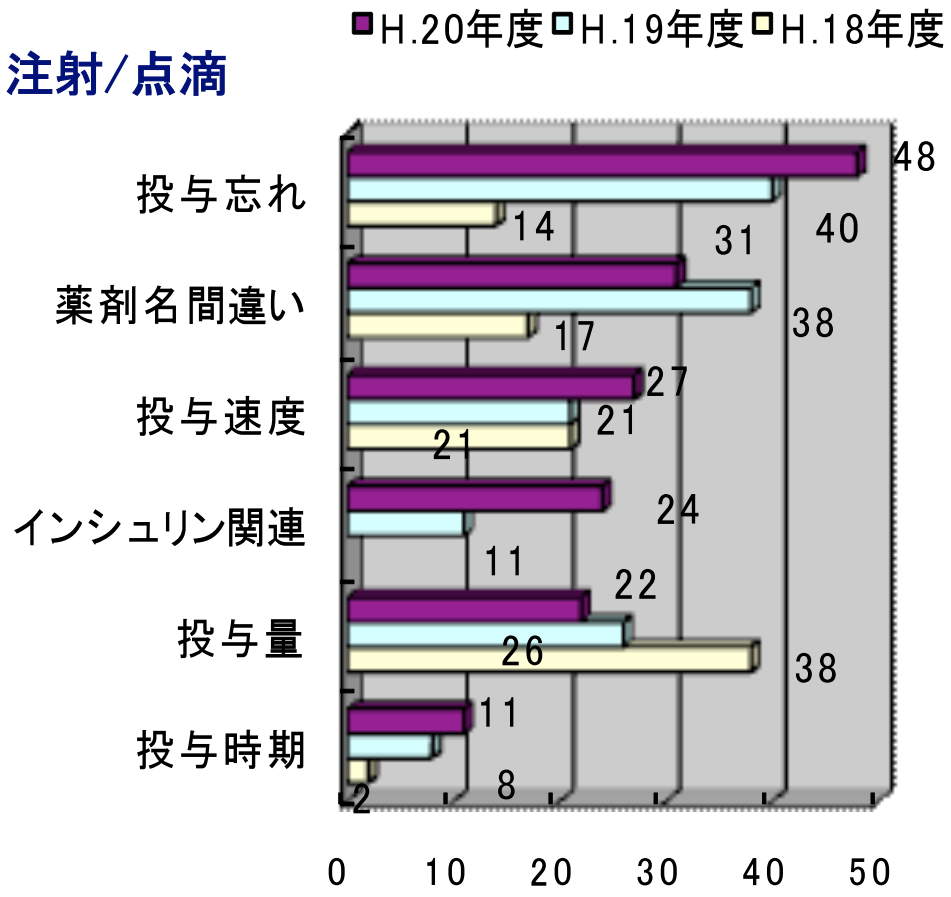
國吉 ひろみ　提供

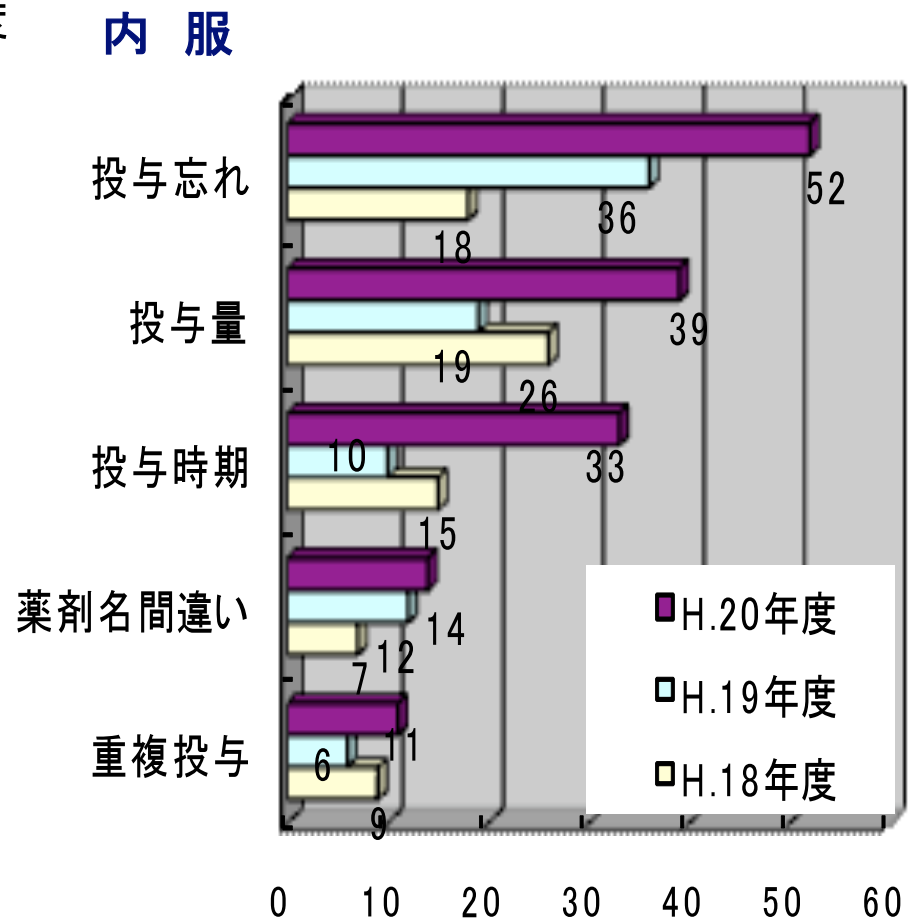
注射/点滴/内服の影響レベル別



國吉 ひろみ 提供

注射・点滴・内服
内容別報告件数





國吉 ひろみ 提供

まとめ

- 全体の報告件数は当初増加したが、この 1 年程は減少傾向にある。
- 影響レベルは 低いものが増加している。
- 1事例への多職種からの報告が増えた。
- 多職種から自主的報告が増加した。
- インシデントに関する考え方が変化した。

↓

リスク感性が高まった。

今後の課題

- スライディングスケールの標準化
- 指差し呼称による確認方法の徹底
- 電子カルテ移行後の指示受け・指示だし方法の標準化
- 転倒/転落：

  個別対応とリスクアセスメントの継続